

左 京 医 報

2024—10

LIX—6 (702)



『ミナミコアリクイ』

葵1班 久保田 豊先生



目 次

2024年10月号（702号） 題字 平 澤 興 先生

表紙写真・文章	葵1班 久保田 豊	1
理 事 会 記 録		3
ひーさん会遠征記 THE LAST?	柴 田 修 宏	10
令和6年度左京医師会文化講演会 ～「和歌に詠まれた四季」冷泉家時雨亭文庫 冷泉貴実子～ および納涼会に参加して 兵 庫 美砂子・松 本 早 苗		13
左京医師会学術講演 要旨 乳幼児難聴の早期発見と高齢者の認知症予防における難聴対策の重要性 京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山 崎 博 司 先生		20
左京医師会 講演会等の予定		22
随 筆 「疏水の水音でフィナーレを迎えた幕末維新の京都交響曲」 第十三話「京都帝国大学に続いて立命館大学が開設され 学生の街・京都となった」（その1） 山 下 敬 司		23
「七仏七界」 西国四十九薬師霊場巡りの旅 その四 前編「瑠界」	松 下 匡 孝	34
編 集 後 記	兵 庫 美砂子	37

左京医報 表紙募集!!

会員の皆様の写真や絵画などを募集しています。
左京医師会事務局までご連絡ください。

表紙のこたば

『ミナミコアリクイ』

葵1班 久保田 豊

夏休みに神戸どうぶつ王国を訪れた際に撮影しました。ムクムクとした丸い身体に小さな顔、つぶらな丸い目に形の良い小さな耳。スマホを向けるとこちらを向いてくれました。黒いベストを着たように見える姿はパンダのようでもあり、木の上を滑らかに移動するさまは大型のイタチのように見えます。可愛らしい容姿でありながら、アリの巣を容易に破壊できる鋭い爪とアリを舐めとるためのミミズのような長い舌をもっているのだそう。下を通るときはオシッコに注意と書かれていたので、遠巻きにサッと下をくぐりました。夏休み中で家族連れでごった返していました。猛暑で人も動物もややお疲れモードだったかな。

一般社団法人左京医師会令和6年度第9回定例理事会

日 時：令和6年8月24日（土）

場 所：京やきにく弘 祇園山名庵

出席者：塩見・松下・十倉・藤田・赤木・細谷・山下・青木・佐藤・早野・久保田・児玉
兵庫・松本・松木・八田・米田監事

I. 報 告

1. 会長報告

- 1) 7月28日（日） 京都府保険医協会第207回定時代議員会（ハイブリッド開催）

於：ホテルグランヴィア京都

- 2) 7月30日（火） 裁定審議委員補欠選挙告示

- 3) 8月1日（木）～8月7日（水） 京都府医師会選挙人名簿縦覧

- 4) その他

来訪、会合、他

- 1) 8月29日（木） 令和6年度京都上地域産業保健センター第1回運営協議会

14時 於：京都府医師会館

- 2) 8月31日（土） 参与会（京都府医師会）

16時 於：京都ブライトンホテル

- 3) 9月14日（土） 地区医師会長と保険医協会との懇談会（ハイブリッド開催）

14時30分 於：京都府保険医協会

- 4) 10月1日（火） 京都市地域医療構想調整会議（合同ブロック会議）（Web開催）

15時

- 5) 12月1日（日） 2024年度（第6回）京大病院地域連携の集い

15時 於：芝蘭会館

- 6) その他

2. 庶 務

- 1) 9月25日（水） 第5回地区庶務担当理事連絡協議会（ハイブリッド開催）

14時30分 於：京都府医師会館

- 2) その他

3. 地域医療

- 1) 7月27日（土） 令和6年度第1回在宅医療戦略会議（ハイブリッド開催）

塩見聡史先生、松下匡孝先生、原山拓也先生、松本早苗先生

於：京都府医師会館

- 2) 7月29日(月) 令和6年度「左京区要保護児童対策地域協議会代表者会議」
兼「左京区子育て支援調整会議代表者会議」
平竹晋也先生 於：左京区役所
- 3) 8月5日(月) 令和6年度第1回認知症総合支援事業アドバイザーボード
(Web開催)
西村伊三男先生
- 4) 8月7日(水) 左京区民ふれあい事業実行委員会「スポーツ部会」
松下匡孝先生 於：左京区役所
- 5) 8月20日(火) さきょう認知症にやさしい地域づくり部会
西村伊三男先生 於：左京区役所
- 6) 8月25日(日) 令和6年度京都府医師会災害医療コーディネート研修会
青木信裕先生 8時30分～18時30分 於：京都府医師会館
- 7) 9月4日(水) 左京区民ふれあい事業実行委員会「区民まつり部会」
松下匡孝先生 14時 於：左京区役所
- 8) 9月13日(金) 地区特定健診等担当理事連絡協議会(ハイブリッド開催)
細谷泰久先生 14時 於：京都府医師会館
- 9) 10月19日(土) 第33回左京医師会認知症研究会
「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」
京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野
教授 木下彩栄先生
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 10) 11月4日(月・振休) 左京区民ふれあいまつり2024
午前 青木信裕先生、八田 告先生
(塩見聡史先生、松下匡孝先生)
午後 細谷泰久先生、松本早苗先生
(塩見聡史先生、松下匡孝先生)
10時～15時 於：左京区役所
- 11) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
- 12) その他

4. 情報広報

- 1) 10月7日(月) 情報広報委員会(Web開催)
- 2) 医報
- 3) その他

5. 学 術

- 1) 9月21日(土) 「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」

京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山崎博司先生

14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都

2) 10月19日(土) 「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」

京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生

16時 於：ウェスティン都ホテル京都

3) 11月16日(土) 「コモンな皮膚疾患の診断と治療」

京都府立医科大学北部キャンパス長 加藤則人先生

14時30分 於：青蓮会館

6. 社 保

7. 福 祉

1) 9月14日(土) 緑寿会 17時 於：竹茂楼

2) 9月23日(月・振休) 令和6年度京都府医師会懇親ゴルフ大会

10名出席予定 於：亀岡カントリークラブ

8. 税 務

9. 会 計

1) 6月・7月予算管理月報・収支決算書推移表

10. そ の 他

II. 議 事

1) 平 憲二先生(上高野班・宝ヶ池リハビリテーションクリニック)

入会申込書・新規開設申込書について ⇒継続審議

2) 医療法人 MOC 松ヶ崎駅前おくだクリニック(松ヶ崎班・A・奥田孝太郎先生)

診療時間変更届について ⇒継続審議

3) 有馬医院管理者交代の取消について

⇒承認

4) 研修医等の会費に関する委員会の設置について

⇒承認

5) 令和6年度「歯のひろば」の共催について(依頼)

⇒継続審議

6) 第45回産業保健活動推進全国会議の出席者について

⇒承認

7) その他

次回理事会：9月13日(金)

文責：松木、佐藤

一般社団法人左京医師会令和6年度第10回定例理事会

日 時：令和6年9月13日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下（Web参加）・十倉・藤田・三嶋・赤木・西村（Web参加）・山下
青木・原山・佐藤・早野・久保田・兵庫・松本・松本・八田・市田・伊地智監事
米田監事

I. 報 告

1. 会長報告

- 1) 8月29日（木） 令和6年度京都上地域産業保健センター第1回運営協議会
於：京都府医師会館
- 2) 8月31日（土） 参与会（京都府医師会）（Web開催）
- 3) 9月10日（火） 後期高齢者の重複服薬相談指導事業の説明
京都府後期高齢者医療広域連合 ご担当者2名
於：国立京都国際会館
- 4) その他
来訪、会合、他
- 1) 9月14日（土） 地区医師会長と保険医協会との懇談会（ハイブリッド開催）
14時30分 於：京都府保険医協会
- 2) 9月19日（木） 京都府医師連盟地区代表者会
14時 於：京都府医師会館
- 3) 9月25日（水） 京都市左京区社会福祉協議会 令和6年度第2回理事会
14時 於：左京区役所
- 4) 9月26日（木） 令和6年度第2回左京区地域福祉推進委員会
14時 於：左京合同福祉センター
- 5) 10月1日（火） 京都市域地域医療構想調整会議（合同ブロック会議）（Web開催）
15時
- 6) 11月30日（土） 左京三師会 16時15分 於：京都ブライトンホテル
- 7) 12月1日（日） 2024年度（第6回）京大病院地域連携の集い
15時 於：芝蘭会館
- 8) その他

2. 庶 務

- 1) 9月25日（水） 第5回地区庶務担当理事連絡協議会（ハイブリッド開催）
14時30分 於：京都府医師会館

- 2) 11月30日(土) 左京三師会 16時15分 於：京都ブライトンホテル
3) その他

3. 地域医療

- 1) 7月29日(月) 令和6年度「左京区要保護児童対策地域協議会代表者会議」
兼「左京区子育て支援調整会議代表者会議」
平竹晋也先生 於：左京区役所
- 2) 8月5日(月) 令和6年度第1回認知症総合支援事業アドバイザーボード
(Web開催)
西村伊三男先生
- 3) 8月20日(火) さきょう認知症にやさしい地域づくり部会
西村伊三男先生 於：左京区役所
- 4) 8月25日(日) 令和6年度京都府医師会災害医療コーディネート研修会
青木信裕先生 於：京都府医師会館
- 5) 9月4日(水) 左京区民ふれあい事業実行委員会「区民まつり部会」
松下匡孝先生 於：左京区役所
- 6) 9月4日(水) 左京区事業者連絡協議会代表者会(Web開催)
塩見聡史先生、松下匡孝先生、原山拓也先生 於：左京区役所
- 7) 9月5日(木) 訪問看護師と左京医師会員との懇談会
出席 医師；11名 看護師；5名 於：国立京都国際会館
- 8) 9月6日(金) 災害対策部会(ハイブリッド開催)
出席；13名 於：国立京都国際会館
- 9) 9月13日(金) 地区特定健診等担当理事連絡協議会(ハイブリッド開催)
細谷泰久先生 14時 於：京都府医師会館
- 10) 10月3日(木) 京都市域地域医療構想調整会議(全体会議)(Web開催)
16時
- 11) 10月19日(土) 第33回左京医師会認知症研究会
「抗A β 抗体薬の登場によるAD診療Update」
京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野
教授 木下彩栄先生
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 12) 10月21日(月) 左京区事業者連絡協議会研修会
「高齢者のきこえを支える」
兵庫美砂子先生 14時30分 於：左京区役所
- 13) 11月4日(月・振休) 左京区民ふれあいまつり2024
午前 青木信裕先生、八田 告先生
(塩見聡史先生、松下匡孝先生)

午後 細谷泰久先生、松本早苗先生
(塩見聡史先生、松下匡孝先生)

- 10時～15時 於：左京区役所
14) 11月17日(日) 令和6年度「歯のひろば」 11時～14時 於：左京区役所
15) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
16) その他

4. 情報広報

- 1) 10月7日(月) 情報広報委員会(Web開催)
2) 医報
3) その他

5. 学 術

- 1) 9月21日(土) 「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」
京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山崎博司先生
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
2) 10月19日(土) 「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」
京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生
16時 於：ウェスティン都ホテル京都
3) 11月16日(土) 「コモンな皮膚疾患の診断と治療」
京都府立医科大学北部キャンパス長 加藤則人先生
14時30分 於：青蓮会館

6. 社 保

7. 福 祉

- 1) 9月14日(土) 緑寿会 17時 於：竹茂楼
2) 9月23日(月・振休) 令和6年度京都府医師会懇親ゴルフ大会
10名出席予定 於：亀岡カントリークラブ

8. 税 務

9. 会 計

10. そ の 他

Ⅱ. 議 事

- 1) 松宮 徹先生（修学院第一班・北白川 とおるクリニック）
入会申込書・新規開設申込書について ⇒回覧
- 2) 医療法人 MOC 松ヶ崎駅前おくだクリニック（松ヶ崎班・A・奥田孝太郎先生）
診療時間変更届について
班回覧 修学院第一班 意見あり。
葵2班・松ヶ崎班・修学院第二班・上高野班 意見なし。 ⇒承認
- 3) 肥後昌五郎先生（修学院第一班・C）退会届について ⇒承認
- 4) 令和6年度「歯のひろば」の出席者について ⇒承認
- 5) 京都市域地域医療構想調整会議（全体会議）の傍聴について ⇒承認
- 6) 子育て支援講演会の講師謝礼について ⇒承認
- 7) その他

次回理事会：9月27日（金）

文責：八田、佐藤

個別相談の受付

一般社団法人左京医師会では、大谷会計事務所のご厚意により、税務・経営・資金等に関する無料個別相談を開催しています。公認会計士、税理士が1回30分程度でご相談に応じますので、希望される会員は事務局まで申し出ください。相談曜日は、第2月曜日14時から16時までとなります。

ただし、相談内容に関して左京医師会は一切関与しませんので会員の自己責任でお願いいたします。

一般社団法人左京医師会

ひーさん会遠征記 THE LAST?

第四錦林班 柴田修宏

7/13～15の日程で上越妙高へ行ってきました。

もともとは左京医師会所属のゴルフ好きが集まって開催されるようになったこのひーさん会、2002年に第1回が開催され、コロナ禍を挟んで23年目を迎えた本会でしたが、「ひーさん」の名を冠した遠征は今回が最後になりました。というのも、本会会長の廣崎彰良先生は今年の本会開催の時点で御年87歳を迎えており、長距離の移動を伴う2日連続のラウンドはそろそろ引退しよう、とのご意向を受けての決断があったからです。

参加は、廣崎彰良、峯松壮平、児嶋久剛、蘆田 潔、山添善博、米田武史（敬称略）、柴田修宏の7名。他のメンバーは様々なご事情があり参加が叶わず、特に松岡秀樹、丹羽勇（敬称略）の両主軸が不参加だったのが残念。これに派生して、毎年恒例であった松岡先生執筆のひーさん会遠征＋府医ゴルフ大会報告記の前半部分執筆のお役目が私に回ってきた、という訳で本稿を書かせて頂いた次第です。駄文ではありますが、少々お付き合い願います。

7/13（土・1日目）14：25に京都駅に集合。サンダーバードで敦賀まで行き、その後北陸新幹線乗り継ぎ上越妙高へ。途中、乗り換えの富山駅でひーさんの姿が見当たらず皆で右往左往しましたが、乗り換え駅変更の伝達が上手くできていなかったことが原因と判明（ひーさんは一足先に金沢駅で乗り換えしていました）。もし乗り換えができていなかったら、ひーさんだけ長野まで行ってしまう事態を招いていただけに一安心（それにしても、上越妙高駅の敷地面積の広さには驚きました。ほぼ1時間に1本の割合でしか新幹



線が到着しないのに、岐阜羽島駅の倍程の敷地があるのでは？と思うくらい。

いざ現地入りして飲食のみの初日は、曇天で気温も丁度良い感じ（現地滞在中の最高気温は27～28℃！）でした。夕食はホテル（アパホテル上越妙高）近くの「美食船 かまた丸」というお店にて、かに懷石料理を。美味しい料理に舌鼓を打ちながらひーさん会の歴史等を懐かしく振り返り、明日・明後日のゴルフへの英気を養うこととなりました。途中、この地に5年半程赴任した経験をお持ちの峯松先生からご当地日本酒・越後三梅（雪中梅、越乃寒梅、峰乃白梅）のことを教えて頂きましたが、お店には越乃寒梅しか置いておらず。残念ながら飲み比べは叶わなかったもので、機会を見つけてチャレンジしたいと思います。

7/14（日・2日目）の朝はやはり曇りでレンタカーでの赤倉ゴルフコースへの移動もスムーズでしたが、いざスタートすると4ホール目ぐらいから雨が降り出してきました。その後さらに雨足が強まったこともあり、2組目（廣崎、峯松、児嶋）は13番ホール終了後に中断を余儀なくされる事態となりました。

ダブルペリアでのスコア集計は18ホール完走の4人を優勝～4位、2組目の3人を5～7位としました。降りしきる雨を物ともせず79でラウンドしてきた山添選手、81の蘆田選手両名の1・2フィニッシュであったこと以外は、その他5名（特に私）の名誉？のため詳細は割愛致します。

ラウンド後はアパホテル&リゾート〈上越妙高〉まで移動・宿泊し、ホテル内で夕食。地元の食材を生かした創作フレンチを堪能しつつ、ワインを楽しみました。

途中、アパの女社長ご推薦のクラフトビール（専用グラスには社長の顔写真付き）を飲む機会がありましたが、グラスのどの部分に口をつけて飲むか？で盛り上がっておりました笑。

余談ですが、売店にはこれまた社長の顔写真付きのアパカレー / アパご飯（レトルト）が…。そう言えば、昨日のホテルの部屋にも社長執筆の書籍が置いてあったなぁ。

7/15（月/祝・3日目：アパリゾート 上越妙高の森ゴルフコース）

早朝の天気予報ではほぼ一日曇りの予報でホッとしていたものの、結局は傘が必要なレベルの雨に一日見舞われました。前日の赤倉ゴルフコースよりもアップダウンがあり、打ち下ろし30Yのショートホール（パインコース No.3）が名物のようでした。

前半終了時に2組目（廣崎、峯松、蘆田）が1組目から30分以上遅れるというアクシデント？（詳細不明）がありましたが、昼食時間を短縮して調整。

後半は滞りなくラウンドでき、2日目は全員が18ホール完走。一日目と同様、山添・蘆田両名が80台でラウンドして1・2フィニッシュだったことのみご報告させていただきます。

ラウンド終了後は早々に風呂を済ませ、14：15にゴルフ場を出発して上越妙高駅を目指

しました（新幹線は15：14で何とかセーフ）。

途中下車（16：55）した福井駅近くの商業施設内にある「くずし割烹ぼんた」というお店で和洋折衷のコースを、やはり日本酒・ワインと共に。入店が17：05、18：41には再び新幹線に乗っていなければならないので、これまた大急ぎでした。

飲み食い・ゴルフ三昧だった2泊3日のひーさん会でしたが、京都駅に到着（20：09）した頃には雨もなく、祇園祭に出かけていたと思われる大勢の浴衣姿の若者達を横目に帰路につきました。

最後に、ひーさんから「膝が痛い。もう遠征は懲り懲り」と改めてゴルフ遠征が最終回である宣言があり寂しい気持ちもありましたが、「日帰りゴルフなら参加する」との頼もしいお言葉も頂きました。

ゴルフ好きの面々の親睦を深めるのはもちろん、毎年9月23日（祝）に行われてきた（コロナ禍を除く）府医の地区対抗ゴルフ大会に向けての調整の場として行われてきた本会ですが…、今年の結果によっては「やっぱり遠征継続！」なんてことにならないかなー？

令和 6 年度左京医師会文化講演会

～「和歌に詠まれた四季」 冷泉家時雨亭文庫 冷泉貴実子 ～

および納涼会に参加して

文化講演会：養 徳 班 兵 庫 美砂子
納涼会：岩倉南班 松 本 早 苗

令和 6 年 7 月 20 日（土）蝉の声も賑やかな盛夏、左京医師会文化講演会・納涼会がホテルオークラ京都で開催され40名という多数のご出席をいただきました。

本年の文化講演会は冷泉家時雨亭文庫の冷泉貴実子様に「和歌に詠まれた四季」のご講演をいただきました。冷泉家は代表的な歌道の宗匠である藤原定家のお血筋にあたられ、日本の和歌文化を継承されています。お話の内容は高雅にして軽やか、ユーモアも交えてわかりやすく我々に和歌の世界観と古来より日本人が大切にしてきた美について教えて下さいました。日頃の医療業務とはまた違った脳の部分が活性化され、文化的な心豊かな時間を過ごすことができ、心に涼をいただきましたので、以下に内容を拙筆ながら記します。



塩見会長 開会の辞



冷泉貴実子様 ご講演

冒頭に、本年 4 月に冷泉家お文庫の蔵から発見された古今和歌集注釈書「^{けんちゅうみつかん}顕註密勘」についてのお話をいただきました。この書は今まで所在不明として探されていた国宝級のもので、鎌倉時代前期の承久 3 年 3 月 21 日（1221 年 4 月 15 日）の日付が入る藤原定家直筆の書です。後世に執筆された幾多の注釈書の原点であり、和の美を規定する尊い書です。お弟子の方々は一生に一回のみ、これを読み学ぶことを許されていたそうで、開けるには代々の天皇陛下の許可が必要でした。明治天皇が「以後必要時には随時開けて読むように」とご許可下さったにもかかわらず、その後、行方知れずになっていました。さぞかし立派

な箱に入ったうやうやしいものであろうと想像していたところ、お文庫の2階に計100冊ほどのものと一緒にぎっくりと保管されており、皆様驚かれたそうです。江戸時代には8棟あったお文庫の蔵は現在5棟、そのなかには未整理の古文書がまだたくさんあるとのこと、今後の新たな発見にも乞うご期待下さい、とのことでした。

四季を詠み愛でた先人の心持ちに触れるには、当時の暦と季節感を知らなければなりません。明治5年以前は旧暦、太陰暦が採用されていました。月の満ち欠け、新月から新月までを1月とする暦で、1月は29.5日、1年は354日になります。徐々にずれてきて季節から外れてくるので、ずれが1月分になると天文博士が「閏月」を入れます。3日の月は「三日月」、7日に「半月」になり、15日で「満月」になります。16日は「十六夜^{いざよい}」の月、ぐずぐずと出る月、という意味です。17日はさらに月の出が遅れるので「立ち待ちの月」立って待ちます。18日になると「居待ちの月」座って待ちます。19日になると「伏し待ちの月」待っていられないので寝て待ちます。25日になると三日月の反対側の細い月が朝方に東の空に現れる「ありあけの月」です。この暦では1～3月が春、4～6月が夏、7～9月が秋、10～12月が冬となり、それぞれの季節の間に節分があります。現代は冬から春へ季節が変わる立春の節分のみが行事として残っています。現在の暦、太陽暦は気温で季節を感じますが、旧暦、太陰暦は日照時間で季節を感じていました。昔人にとって夜は暗く怖いものだったので、皆、夜の長い冬が嫌いでした。夜に元気になり繁華街に繰り出す現代人とは大分違いますね。

一首目：梅が枝に 鳴きてうつろふ 鶯の 羽白妙に 淡雪ぞ降る

うめがえに なきてうつろふ うぐいすの はねしろたえに あわゆきぞふる

惟明親王（新古今）

春の歌です。実際、梅が咲く季節に鶯は鳴きません。鶯は梅が咲き終わったあとに鳴きます。さらに言うと鶯が鳴くような季節に白い淡雪など降るはずもなく、詠人もその景色^{よみびと}を実際に見てはいません。でも日本人の定型的な美のパターンに「梅に鶯」があるので、花札の絵柄にもありますよね。

二首目：またや見む 交野のみ野の 桜狩 花の雪散る 春のあけぼの

またやみむ かたののみのの さくらがり はなのゆきちる はるのあけぼの

藤原俊成（新古今）

俊成は定家のお父上です。交野は今の京阪沿線、その昔、禁裏の御料場、狩りを行う場所でした。少し遠いので馬で行って宿泊します。朝起きるときとこんなふうだろうな、もう一回見たいな、桜が雪のように散っているよ。この歌も詠人は必ずしも交野に行っていないと思います。本当のことか嘘かはあまり関係ありません。想像力を駆使して美しい情景を詠み、桜が散る、という日本の美のパターンを創り上げているのです。

三首目：三千年に なるてふ桃の 花咲けり 折りてかざさむ 君がたぐひに

みちとせに なるてふもの はなさけり おりてかざさむ きみがたぐひに

(落窪物語)

当時重要視されていた陰陽道では、いろいろなものを陰と陽に分けて考えていました。女は陰、男が陽とされていました。現代は女性がとても元気で反対のイメージでしょうか？ 数字にも陰と陽があり、偶数は陰、奇数を陽として奇数を尊ぶ傾向がありました。現代にもこの感覚は残っていて、結婚式のご祝儀などにお包みするのは、1万、3万の次は5万、となるのではないのでしょうか？ お渡しするおまんじゅうの数も奇数が礼儀に叶う、とされます。暦の上でも1月1日をお正月、3月3日を桃の節句、5月5日を端午の節句、7月7日を七夕として祝います。9月9日は現代ではあまり祝われませんが、重陽の節句といい最高の吉日とされていました。今は「救急の日」だそうで、大分受け止め方が変わりましたね。桃の節句3月3日は西王母^{せいおうぼ}という女神が三千年に一回しか実らないといわれている桃を持ってくる日と言われています。西王母はよく中華料理屋さんの看板に桃の実を持って笑っている、あの人です。桃は吉兆です。余談ですが桃太郎はヒーローですがリング太郎はいませんよね。三千年に一回なる桃の花が咲きました。折ってかざしましょう、あなたの長寿のために、という歌です。現代では髪に花を飾るのは女性ですが、昔は男性の烏帽子に花を飾ったのです。

四首目：五月雨の 雲間の月の 晴れゆくを しばし待ちける 郭公かな

さみだれの くもまのつきの はれゆくを しばしまちける ほととぎすかな

二条院讃岐(新古今)

ここから夏の歌です。五月雨とは、今で言う梅雨の雨です。しとしとと物思いにふけり、また流行病が増える時期でもあります。そこで菖蒲やヨモギをつって無病息災を願います。郭公は「ホトトギス」と読みます。パソコンでは「カッコウ」と別の鳥を入力しないとこの漢字に変換されませんが、和歌の世界では「ホトトギス」のようです。ホトトギスは夜鳴く鳥。雨が上がらないと鳴かないので、早く雨が上がり雲の間から月の光が差しますように、そして早くホトトギスの鳴く声を聞きたいな、と願う夏の夜の歌です。

五首目：むすぶ手に 影乱れゆく 山の井の あかでも月の かたぶきにける

むすぶてに かげみだれゆく やまのいの あかでもつきの かたぶきにける

慈円(新古今)

夏、冷蔵庫やエアコンのない昔人にとって、暑いときに冷たい井戸水に手をつけて涼をとるのは何より嬉しいことでした。山の泉の水を手ですくうと月の影が乱れることより、夜なのでしょう。飽きずに手で水をすくっていたら月が傾いて朝がきてしまいました。夏の夜の短さをも表す歌です。

六首目：雲間より 星合ひの空を 見渡せば しづ心なき あまの川浪

くもまより ほしあひのそらを みわたせば しづごごろなき あまのかわなみ

大中臣輔親（新古今）

秋の歌です。雲間に星と星がデートする七夕の歌ですが、旧暦では7月は秋です。秋は寂しい、と思われがちですが、これはシャンソンの「枯れ葉よ」などの西欧の影響です。日本では古来、秋は豊穡の季節、嬉しい季節でした。七夕、織姫と彦星は一年に一度だけ天の川を渡って出会います。渡り方も、かささぎの羽根を渡した橋を渡る、半月を御船にして渡る、少しだけ色づいたもみじの橋を渡る、など諸説あり、いずれも日本の美の定型となっています。

七首目：秋風に たなびく雲の 絶え間より もれ出づる月の 影のさやけさ

あきかぜに たなびくくもの たえまより もれいづるつきの かげのさやけさ

藤原顕輔（新古今）

7月が初秋なら8月は中秋の名月です。秋の月は澄んだ月、春のおぼろ月と対照的に詠まれます。澄んだ月光は作り出す影まで美しい、と詠んでいます。

八首目：白雲に 羽うちかわし 飛ぶ雁の 数さへ見ゆる 秋の夜の月

しらくもに はねうちかわし とぶかりの かずさへみゆる あきのよのつき

詠人不知（古今）

同じく中秋の名月と、秋の鳥である雁を詠んだ歌です。「かり」とも「がん」とも読みます。この鳥は夜に「カリカリ」「ガンガン」と鳴きながら、列を作ってとぶのだそうです。暗いはずの夜に飛ぶ雁の数さえ数えられるくらい月光が冴えて明るいさまを詠んだ歌です。実際数えているとはとても思えませんが、これも様式美のパターンです。雁は今では天然記念物で、狩って食することはできませんが、昔は美味しくいただいていたそうです。大豆加工品の「ひろうず」のことを「がんもどき」と言うことがありますが、これは「雁のように美味しいもの」という意味なのだそうです。知らないうちに昔人の味覚が日本の食文化に息づいているのですね。

九首目：嵐吹く 三室の山の もみち葉は 立田の川の 錦なりけり

あらしふく みむろのやまの もみちばは たつたのかわの にしきなりけり

能因（後拾遺）

晩秋の歌です。三室の山、立田の川、ともに紅葉の代名詞となっている場所で、枕詞に使われます。紅葉が川に散ることで綾織りの錦のように美しく流れるさまを詠んでおり、晩秋の様式美のひとつのパターンです。在原業平など多くの歌人がこのパターンを歌に詠んでいます。これもまた実際には訪れてはいないものと思われます。

十首目：駒とめて 袖打ち払う 陰もなし 佐野のわたりの 雪の夕暮れ

こまとめて そでうちをばらう かげもなし さのわたりの ゆきのゆうぐれ

藤原定家（新古今）

ここからは冬の歌です。昔人は冬が苦手です。しかし雪は愛でられます。雪月花と呼ばれ雪、月、花は美しいものとして詠まれます。雪がたくさんついた衣（袖といいます）を払おうにも物陰もない、ただただ広い雪原だけが広がる夕暮れの寂しさを歌っています。佐野という地名から全国で数カ所、この歌の舞台として名乗りを上げてくださっていますが、定家は京都でこの歌を詠んだのではないのでしょうか。

十一首目：埋火の あたりは春の 心地して 散り来る雪を 花とこそ見れ

うずめびの あたりははるの こちして ちりくるゆきを はなとこそみれ

素意（後拾遺）

埋火は炭火のことです。暖をとる唯一の手段である埋火の手鉢に手をかざして外に目をやる昔人が見えるようです。ああここにいると春のようだ、降る雪も散る花のように見える、早く春がくるといいなあ、という、シンプルではあるものの情景が目につく美しい歌です。

以上、十一首、奇数の歌をご紹介いただきました。これも冷泉貴実子様の美意識でしょうか。ここからは和歌と現代短歌との違いについてお話が進みます。宮中歌会始などで紹介される現代短歌も同じように五・七・五・七・七で詠まれますが、現代短歌は明治維新

以降に入ってきた西洋文化の影響を受けており、「芸術」とは自我を表現するものである、と言う考えに根ざしています。学校でも、歌を詠むときに「あなたの考えを思ったように、人の真似をしてはあきません」と指導されます。一方、明治維新以前の和の美は、皆で共有するもの「あなたも私も同じものを美しいと思うよね」という定型の美です。先ほどの「梅に鶯」などが好例です。茶道でも同じようにお待合にいけるものは「1月は若柳」などとたくさんの決まりごとがあります。このベースが整えられるのが古今和歌集の頃で、京都にはこの様式美が現代でもそこここに息づいています。上用おまんじゅうの焼印には、桜、ホトトギスなどそれぞれの季節の印を焼き込み、懐石料理は口にする食材のみならず、底敷きの葉などにも「七夕には梶の葉」など季節を感じさせるものをあ



花束贈呈
冷泉貴実子様と塩見会長奥様

しらいます。梶とはコウゾによく似た樹木で、古来、七夕には、ずいきの葉におかれた露で墨をすり、梶の葉に和歌を記し、笹につるす風習がありました。冷泉家では今でも七夕はこのような過ごされているそうです。

このように現代には失われてしまった風習、また由来は知らずとも私たちの行動や美意識の根底に流れているものも、多くはルーツをたどると和歌の世界にたどりつきます。そこには日本人が古来から代々大切にしてきた伝統美の定型があふれているのです。

雅やかな講演会のあとは、場をうつして納涼会です。乾杯のご発声は八田一郎先生がおり下さいました。お料理は中華、円卓を囲んで楽しい歓談の時間を過ごすことができました。



乾杯のご発声 八田一郎先生



前列左より塩見会長・冷泉貴実子様・塩見会長奥様
後列左より十倉副会長・松下副会長・伊地智監事・藤田副会長



会場全景

ここで所用あり兵庫はお先に失礼しましたので、恒例のクイズタイムについては松本早苗先生よりお伝えいただきます。



クイズ司会の松本先生



冷泉貴実子様が chatGPT 作成の回答を訂正される

昨年に引き続き、今年も ChatGPT を駆使した AI クイズが行われました。冷泉貴実子様にちなんだ 4～5 択クイズが10問で、例えば冷泉貴実子様の出身地は？現在の役職は？冷泉家は何代続いた家？など、講演の中で出てきた内容も含まれていて、どっちだったっけと頭をかきつつ、しばしの脳活タイムとなりました。正解はご本人がユーモアを交えながらニコニコと答えてくださるので終始和気あいあい。「冷泉貴実子様ご執筆の小説は何年に芥川賞を受賞したか」という問題に対しては「何でこんな問題が出てくるのかしら？小説なんか書いていませんよ」と茶目っ気たっぷりにお答えになったのがとても印象的でした。結果は5名が満点、その中でジャンケンに勝利した松田先生と垣内先生が見事一位の賞品を獲得されました。おめでとうございます。



満点の先生方でじゃんけん



見事賞品を獲得された松田先生と垣内先生

乳幼児難聴の早期発見と高齢者の認知症予防における 難聴対策の重要性

京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科

講師 山崎博司先生



難聴は、乳幼児から高齢者まで、あらゆる年齢層で発生する可能性のある身近な健康問題です。難聴は、コミュニケーション能力や認知機能など、高次脳機能に深刻な影響を与える可能性があるため、適切な対応が必要です。難聴には伝音難聴と感音難聴の2種類があり、それぞれ治療法が異なります。伝音難聴は、外耳または中耳の疾患によって音が効率よく内耳に伝わらない状態を指します。この場合、補聴器や手術によって内耳に届く音を増幅することで難聴が改善されます。一方、感音難聴は、音を感知する神経が障害される

ことで生じ、聞こえる音が小さくなるだけでなく、重度になるほど言葉の輪郭が不明瞭になります。補聴器は音を増幅することはできますが、言葉の明瞭度を改善することはできません。そのため、軽度から中等度の感音難聴には補聴器が有効ですが、重度の感音難聴では補聴器を使用しても「声は聞こえるが、何を言っているかわからない」という結果になることがよくあります。このような重度の感音難聴の場合、人工内耳の装用が唯一の治療手段となります。人工内耳は、体内装置（インプラント）と体外装置で構成され、手術で埋め込まれたインプラントを用いて聴神経を直接刺激し、音を感じ取る能力を回復させます。音声言語の識別においては、音の高さと大きさが重要な意味を持つため、人工内耳では音の「高さ」を内耳（蝸牛）内の電極位置で、音の「大きさ」を刺激電流量で再現し、音声情報を脳に伝えます。しかし、人工内耳で聞こえる音は機械的であり、必ずしも音質が良いわけではありません。そのため、人工内耳を使用して音声を聞き取るためのリハビリテーションが重要です。

乳幼児の難聴は、放置すると不可逆的な言語発達遅滞を引き起こします。脳の可塑性を最大限に活かすためには、新生児聴覚スクリーニングを活用した早期発見と早期介入が極めて重要です。特に2023年には、先天性難聴の原因の一つである先天性サイトメガロウイルス感染症に対する治療ガイドラインが発表され、産科・小児科・耳鼻科の密接な連携が求められています。一方、高齢者においては、難聴が認知症の原因となることが明らかになっており、特に壮年期以降の難聴は回避可能な最大のリスクファクターであるとされています。難聴を放置すると、コミュニケーション能力の低下によって社会的孤立を招き、

結果的に認知機能の低下や認知症の進行を促進する可能性があります。高齢者では、難聴が重度になる前、または脳の予備能が保たれているうちに、補聴器や人工内耳を早期に導入することが効果的と考えられます。本邦では、補聴器を装用する難聴者の割合が他国に比べて極めて低い現状があります。これに対し、耳鼻科だけでなく、医師会全体で地域の難聴対策に取り組む必要があります。



左京医師会 講演会等の予定

(令和6年10月～11月)

開催日と場所は変更になる場合があります。
開催時間など詳細が決まりましたら医報などにて告知致します。

◆第33回認知症研究会

と き 10月19日(土) 14時30分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「抗A β 抗体薬の登場によるAD診療 Update」

京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野

教授 木下彩栄先生

◆左京学術講演会

と き 10月19日(土) 16時00分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」

京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生

◆左京学術講演会

と き 11月16日(土) 14時30分

ところ 青蓮会館

「コモンな皮膚疾患の診断と治療」

京都府立医科大学 北部キャンパス長 加藤則人先生



「疏水の水音でフィナーレを迎えた幕末維新の京都交響曲」

第十三話 「京都帝国大学に続いて立命館大学が開設され

学生の街・京都となった」(その1)

北白川2班 山下敬司

【京都帝国大学の創立には西園寺公望と中川小十郎が深く関わっていた】

明治27年(1894年)に文部大臣に就任した西園寺公望^{さいおんじきんもち}は、高等教育の拡張を打ち出し、日清戦争の賠償金の一部を使って東京帝国大学と並び立つ二番目の帝国大学を関西に設置することを政策に掲げました。新しい帝国大学は、第三高等学校(別称は三高)のある京都に第三高等学校とは別個に設立されることとされましたが、両者が密接に絡んでいたことは論を俟たないでしょう。旧制帝国大学の設置状況から見て、第三高等中学校(その後第三高等学校となった)が大阪から京都に移転されていなかったならば、新しい帝国大学は京都ではなく大阪にできたと筆者は考えています(表4)。

なお京都府は第三高等学校の移転先として現在の京都大学総合人間学部がある場所を買収して提供し、第三高等学校の校地(現在の京都大学本部キャンパス)と校舎を京都帝国大学が発足時に使えるようにするなど最大限の協力をしています。

京都帝国大学の開学にあたっては、西園寺公望文部大臣の肝いりで関西京都帝国大学「創立準備委員」が明治30年(1897年)に設立され、折田彦市(第三高等学校長)、牧野伸顕(文部次官)、木下広次(文部省専門学務局長、元東京帝国大学法科大学教授・第一高等学校校長)、永井久一郎(文部省会計課長)らが創立委員に任命されました。折田彦市は京大初代総長の有力候補でしたが、京大初代総長には木下広次が就任しました。そして明治30年(1897年)に京都帝国大学が開学しました。

第三高等学校は吉田本町にあった施設を京都帝国大学に譲り渡し(現・京大吉田中央構内)、吉田神社参道(東一条通)を隔てて南側の吉田二本松(現・京大吉田南構内)に移転しました。京都帝国大学の設立に伴い、第三高等学校は大学進学のための予備教育機関に転換され、それまではなかった本科と予科が設置される一方で法学部・工学部の専門学科は解散されて京都帝国大学に吸収され、岡山にあった医学部は分離されて独立した後に岡山医学専門学校を経て岡山大学医学部となりました。

西園寺公望の意向を受けて、京都帝国大学の設立事務を初代事務局長として取り仕切ったのは中川小十郎で、文部省専門学務局勤務から文部大臣秘書官として西園寺文部大臣直

属となり、京都帝国大学設立後はその初代事務局長（当時の役職名は書記官）に任命され大学業務を統括しました。京都帝国大学初代総長の木下広次は小十郎の恩師であり、京都帝国大学は木下・中川の師弟コンビでスタートを切りました。

《表 4》旧制ナンバー高等学校と帝国大学との関係及びこれとは無関係に設置された帝国大学

旧制ナンバー高等学校と帝国大学との関係				
学校名	設立年の和暦／西暦 なお高等学校に前身を持つものはその設置年	所在地	関係する帝国大学と その創立年	関係する新制大学
第一高等学校	明治19年／1886年	東京都	東京帝国大学 明治19年／1886年	東京大学 千葉大学・医学部
第二高等学校	明治20年／1887年	仙台市	東北帝国大学 明治40年／1907年	東北大学
第三高等学校	明治19年／1886年	京都市	京都帝国大学 明治30年／1897年	京都大学 岡山大学・医学部
第四高等学校	明治20年／1887年	金沢市	*	金沢大学
第五高等学校	明治20年／1887年	熊本市	*	熊本大学
第六高等学校	明治33年／1900年	岡山市	*	岡山大学
第七高等学校 造士館**	明治34年／1901年 (明治20年／1887年)**	鹿児島市	*	鹿児島大学
第八高等学校	明治41年／1908年	名古屋市	名古屋帝国大学 昭和14年／1939年	名古屋大学
旧制ナンバー高等学校とは無関係に設立された帝国大学				
関係する前身校		所在地	帝国大学と創立年	新制大学
京都帝国大学の分科大学として1903年に 設立された福岡医科大学		福岡市	九州帝国大学*** 明治44年／1911年	九州大学
札幌農学校から改組された1907年設立の 東北帝国大学農科大学		札幌市	北海道帝国大学 大正7年／1918年	北海道大学
1919年に設立された大阪府立大阪医科大 学		大阪市	大阪帝国大学**** 昭和6年／1931年	大阪大学

* 八校あった旧制ナンバー高等学校（＝ナンバースクール）のうちで第四～第七高等学校からは帝国大学は造られず、大学ができたのは太平洋戦争後（新制大学）であった。第四～第七高等学校の所在地は金沢市、岡山市、熊本市、鹿児島市で、いずれも地方の基幹都市ではあったものの大都市ではなかったことが影響したと考えられる。関西地区にあり大阪市より遙かに小さな都市である京都市に京都帝国大学がいち早くできたのは、第三高等学校が京都にあり、第三高等学校の広大な校地と校舎をそのまま京都帝国大学へ転用できたことや、時の文部大臣の西園寺公望の意向に加えて、第三高等学校の守護神と言っても過言ではない折田彦市（はな）の存在も影響したと思われる、彦市は初代京都帝国大学総長となるとの観測もあったが、終生第三高等学校長を貫いた。

** 鹿児島にあった第七高等学校のみ薩摩藩校であった造士館の名を冠しているが、旧薩摩藩主の島津忠義の希望でその寄付により明治20年（1887年）に設置された鹿児島高等学校造士館の名

に由来しており、鹿児島高等学校造士館は一旦廃止後に第七高等学校造士館へ再編された。この時に山口市に旧毛利藩主の希望でその寄付により山口高等学校も造られたが、同校はナンバー高等学校にはならずその後山口高等商業学校へ再編されている。この両高等学校は全国を5区に区分けして造られたナンバー高等学校とは別に設置されたが、森 有礼初代文部大臣が薩長両藩の旧支配者からの要請に配慮したためであった。

***九州帝国大学は、設置の際に順当なら第五高等学校があった熊本市に設置されてしかるべきであったが、福岡市と長崎市も誘致活動を展開し、官営八幡製鉄所の開業以降発展する北九州工業地帯を県内に抱える福岡県の県庁所在都市だった福岡市に軍配が上がることとなり、開学に際しては古河財閥が100万円の寄付をしている。九州帝国大学が福岡にきたことにより、九州の中心県は熊本県から福岡県へ名実共に移行していった。

****帝国大学の設置は当初は日本の各地方（東北北海道・関東甲信越・東海北陸・関西中国四国・九州）への一校設置が意識されたが、大都市の発展と共に大都市への設置が意識されるようになり、大阪帝国大学と名古屋帝国大学は大都市ながら帝国大学が設置されていなかった大阪市と名古屋市に設置された。大阪帝国大学の設置により関西地区では例外的に京都帝国大学と共に帝国大学が二校存在することとなったが、既に歩みを盤石なものとしていた京都帝国大学を大阪へ移転することは最早不可能であったためと筆者は考えている。

【京都大学の自由の学風の原点は西園寺公望か、それとも折田彦市か？】

西園寺公望の理念は、「自由主義・国際主義・平和主義」であり、公望により創立されたと言っても過言ではない京都帝国大学は、その理念を受け継いで「自由の学風」が学是となり、現代まで受け継がれています。京都帝国大学の創立後に公望と小十郎は文部省を去りますが、小十郎は後に立命館大学を創立します。

京都帝国大学の「自由の学風」のもう一つの起源は、第三高等学校の校長を長きにわたって務めた折田彦市の「無為にして化す」（生徒の人格を最大限認め可能な限り干渉を排す）という教育方針であったと言われています。

彦市が校長を退官後の大正11年（1922年）に、学生への統制を強めた第3代校長・金子銓太郎に対して学生たちが反発し、激しい校長排斥運動が起こり学内が混乱します。それを受けて金子に代わった第4代校長・森 外三郎とそれ以後の歴代の校長には、彦市校長時代に第三高等学校を卒業した人達が就き、その後の第三高等学校の運営は彦市を範とした学生の自由を重んじるものとなりました。

【京都大学の入学試験日には、張りぼての折田彦市像が総合人間学部が登場！】

京都大学総合人間学部（旧・京大教養部で第三高校学校がかつてあった）の構内には、彦一を記念して銅像が建てられていましたが、度重なる学生のいたずらのため彦一像は京都大学百周年記念館の歴史展示室へ移動されました。その後は学生らが張りぼての彦一像を自主制作し、毎年入学試験日に京都大学総合人間学部構内に像が出現しては撤去されて

います。彦一もこんな形で自らが撒いた自由の精神の洗礼を受けようとは予想できなかったことでしょう（図88）。



図88：折田彦市の肖像（左側）（京都府教育会編輯『京都府教育会五十年史』京都府教育会から昭和5年[1930年]に刊行から）と令和6年（2024年）2月26日の京都大学前期二次試験日に京都大学総合人間学部構内（かつての第三

高等学校のあった場所）に現れたマリオのバックンを模した折田彦市の張りぼての創作モニュメント（中央、筆者撮影）と森 有礼の肖像（右側、近世名士写真 其2、近世名士写真頒布会、昭和10年[1935年]刊行、国立国会図書館デジタルアーカイブから）。彦市と森はともに薩摩藩士であり、森が先輩で彦市は森を慕い森は彦市を高く評価していた。第三高等学校の京都移転はこの二人と北垣国道の合作だったと筆者は考えている。彦市のモニュメントは京都大学の二次試験日に年替わりで登場し、複数が張り合うこともあるという。元々あった彦市の銅像は、学生の度重なるいたずらのため、大学当局が京都大学百周年記念館の歴史展示室の中へ格納してしまったため、それ以後は学生らの自主的な折田彦市の創作モニュメントが前期入学試験日に京都大学総合人間学部構内に出現するようになったそうである。像の掲示は大学当局の許可を得ておらず、掲示後に警告を受け当局が撤去するということが毎年繰り返されている。いかにも自由の学風の京都大学らしいエピソードである。

京都大学の敷地は立ち入り制限がなく、部外者でも自由に立ち入ることができます。多くの大学が部外者は入構禁止となっているなかで、同校の開放性は際立っており、こんなところにも京都帝国大学・第三高等学校の「自由の学風」は、新制京都大学へしっかりと引き継がれています。

【彦市が第三高等学校の校長を退官するまで続けたのは森への追憶だった？】

折田彦一の出身は中堅の薩摩藩士で、同じく薩摩藩士で2年先輩の森 有礼文部大臣とは極めて親しい関係にあり、彦市は森を大変尊敬していました。高等学校の整備と再編は森文部大臣と彦市の合作と思われ、彦市はその時に第三高等学校長から文部省学務局長として一時的に文部省へ呼び戻されています。そして大坂にあり校舎が手狭であった第三高等学校は、京都府知事の北垣国道に広大な校地と移転費10万円を提供すれば京都へ移転するとの条件を提示し、国道と京都府会が受け入れたことで移転が決まりました。

そして第三高等学校の京都移転の年に森は暗殺され、森を尊敬し兄のように慕っていた彦市は強烈なショックを受けます。彦市は森の忘れ形見とも言える第三高等学校（そ

の後に第三高等学校となった）を校長として守っていくのが森への恩返しであると考えたのではないのでしょうか。そして彦市はその後20年以上第三高等学校の校長を退官するまで続けました。

ちなみに彦市には6男2女の子供たちがおり、男の子たちの名には、森 有礼の名の一部である有の字が名前の先頭に入っているそうです（有○）。彦市の恩人・先輩そして同志でもあった有礼への彦市の追慕の情の現れと考えて間違いないでしょう。

【折田彦市が主導した自由な学風は森 有礼の教育思想とは真逆であった】

森 有礼は教育制度改革を行い今日の学制の基礎を築いた人ですが、福沢諭吉や西周、加藤弘之、津田真道らと欧米思想を啓蒙するため「明六社」を結成したり、英語を国語とする「国語外国語化論」を提唱したりするなど、進歩的な知識人でした。それでは彦市の「自由な学風」の原点は森の教育思想だったのでしょうか？

しかし初代文部大臣としての森の教育方針は、帝国大学令や中学校令などの諸学校令の発布による国家教育のシステム化と、国家が求める学生や大学になることを学生たちや大学当局に求めるという管理教育であったと言われています。森が起草した帝国大学令には「国家ノ須要ニ応スル學術技芸ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攷究スル」と書かれており、国家が求める人材育成や国家に資する学術研究を大学に求めています。そして森は体力増進のために学校に兵式体操を導入し、その後に学校の軍事教練へと発展していき、日本軍国主義への伏線となっています。

このように森には自由主義的な啓蒙思想家という面と、軍国主義教育に繋がる管理教育の推進者としての二面性がありました。これをもって森を右傾化教育の創始者と断じることがはたやすいですが、当時の日本は弱小国で、一步間違えれば欧米列強の植民地となってもおかしくなかったことを考えると、やむを得ないことであったのかもしれません。

しかし同じ立ち位置にいた彦市は、自由の学風は頑なに守り通しました。森を崇拜していた彦市が、その点だけは森から学ばなかったのはどうしてだったのでしょうか？

【彦市の自由な学風の原点はニュージャージー大学長のマコッシュだった？】

それでは彦市の掲げた「自由な学風」の原点はどこから来たのでしょうか？

明治維新後に岩倉具視の子たちが米国留学をする際の随員として米国へ留学した彦市は、彼らとは別行動となった後に、米国代理公使だった郷里の先輩の森 有礼の助力によりニュージャージー大学（現・プリンストン大学）へ入学し、その学長だったジェームズ・マコッシュの薫陶を受けます。彼の教育方針は学生の自主性を重んじることであり、科目に選択教科を取り入れるなど当時としては斬新なものでした。そこで彦一は彼から「自由の学風」の真髄を学び取ったと言われています。またアメリカ留学時代にキリスト教に興味を持ち、洗礼を受けてキリスト教徒になっています。このような背景も彦市の教育方針

に影響したと思われます。

なお、彦一は官立学校である第三高等学校長という立場から、キリスト教徒であったことは公言しなかったため意外と知られておらず、筆者も本稿を執筆するまでは知りませんでした。彦市と新島 襄との個人的関係は調べた範囲では明らかではなく、どの程度の親しさだったのかはわかりませんが、ともにアメリカの大学で教育を受け、ともにキリスト教徒であったことから、互いに親近感を抱いていたのではないかと筆者は想像しています。

【折田彦市の第三高等学校退任に際しての言葉に学生たちが啼泣した！】

彦市は60歳となった明治43年（1910年）に第三高等学校の校長を退任し、退任の挨拶で「三高三十年の感想は、わずかな時間に尽くすべくもない。私の生活は第三高等学校であった」と語ったそうです。そしてその言葉を聞いた学生たちの中には啼泣するものも少なからずいたそうです。彦市が如何に第三高等学校を愛し、その生徒たちから愛されていたかがわかるエピソードですね。

彦市は退任後も京都に住み、貴族院議員に選ばれ、大日本武徳会の運営に携わりました。そして大正9年（1920年）にスペイン風邪に罹患して70歳で死去し、北垣国道が埋葬されている金戒光明寺の北墓地のすぐ北側にある真如堂の墓地へ埋葬されました。

【第三高等学校ゆかりの逍遙の歌と琵琶湖周航の歌は今も歌い継がれている】

京都大学出身者でも昭和15年（1940年）制定の校歌（学歌）を知らない人が多いと思いますが、第三高等学校の寮歌「逍遙^{しょうよう}の歌^{うた}」は多くの京都大学関係者に知られており、第三高等学校ボート部の部歌「琵琶湖周航の歌」は、京都大学関係者のみならず多くの人々に歌い継がれています。

「逍遙の歌」の歌いだしは「紅萌ゆる丘の花♪」で、「逍遙の歌」と聞いてもピンとこない方でも、その歌詞とメロディーを聴けばお分かりになる方も多いのではないのでしょうか。作詞者は澤村胡夷^{さわむら こい}（＝沢村専太郎）という第三高等学校から京都帝国大学へ進学した詩人ですが、作曲者はK.Y.とイニシャルしかわかっていません。作られたのは明治37年（1904年）で、昭和38年（1963年）に「逍遙の歌」の原譜がみつき、その作曲者欄にK.Y.と書かれていたそうで、それまではイニシャルも不明だったそうです（ちなみに筆者のイニシャルもK.Y.である）。

なお「逍遙の歌」は第三高等学校のみならず、他の旧制高等学校や旧制専門学校、大学予科でも別の歌が「逍遙の歌」として歌われていますが、旧制第一高等学校の「ああ玉杯」、北海道帝国大学予科の「都ぞ弥生」共に「日本三大寮歌」とされる第三高等学校の「逍遙の歌」が最も知られています。ちなみに「逍遙」とは「そぞろ歩き」を意味する古語です。

「琵琶湖周航の歌」は、大正6年（1917年）に第三高等学校ボート部の部員が恒例の琵琶湖周航を行っていた時に、部員の小口太郎による詞が「ひつじぐさ」（吉田千秋作曲）

のメロディーに乗せて歌われたのが最初と伝えられています。その後、この歌は第三高等学校の寮歌・学生歌として扱われ、学内以上に学外、特に滋賀県民に愛され、自治体からは公認されていませんが滋賀県民歌と言っても過言ではないでしょう。そして歌の「誕生の地」とされる滋賀県高島市今津町には琵琶湖周航の歌資料館があります。

滋賀県には県の公募によって作られた「県民の歌」がありますが、「琵琶湖周航の歌」があまりにも県民に愛され過ぎて知名度が上がらず、平成11年（1999年）に行われた滋賀県の調査では県民の63%が「県民の歌」を知らなかったそうです。多分、現在でもその割合は変わらないのではないのでしょうか。

「逍遙の歌」には吉田山の四季の光景が歌い込まれています。そして「琵琶湖周航の歌」には琵琶湖の美しい風景が余すことなく歌い込まれています。これらは、大阪舎密局から発展していた第三高等中学校が、大阪府東区大手前之町から明治22年（1889年）に京都市上京区吉田町（現・左京区吉田本町）へ引っ越してこなかったら存在し得なかった歌でした。第三高等中学校の京都移転は、京都府の人々のみならず滋賀県の人々にも今なお影響し続けています。

【第三高等学校は彦市校長の下で予備教育機関に甘んぜず人材教育が行われた！】

京都帝国大学の創設にあたっては、第三高等学校とは別個に京都帝国大学を創立することになったため、京都大学は明治30年（1897年）6月18日の京都帝国大学創設の勅令第209号をもって創立としており、第三高等学校は京都大学の前史とはなりませんでした。

明治27年（1894年）に高等中学校が高等学校に改められた際に、第三高等学校だけは他の高校と違って本科（大学へ進学する者のための教育をする学科）や予科（本科へ進む者のための予備教育を行う学科）を置かず、法学部と工学部と医学部（医学部のみ岡山分校）の専門学科のみを置いており、彦市は専門学科を足がかりとして第三高等学校をそのまま帝国大学へ昇格させることを狙っていました。

しかし明治30年（1897年）の京都帝国大学の設立に伴って高等学校は本科・予科を設置して大学進学のための予備教育機関となることとなり、第三高等学校は法学部と工学部の専門学科は新規募集を停止して京都帝国大学へ吸収され、第三高等学校岡山分校にあった医学部は岡山医学専門学校を経て戦後に岡山大学医学部となりました。その結果、第三高等学校は本科・予科のみとなり、その卒業生の多くが京都帝国大学へ進みました。

このように第三高等学校は、大学進学のための予備教育機関となりましたが、彦市はそれに甘んじず独自の人材育成教育が展開されていくこととなります。そして、京都大学の学風の形成に第三高等学校が与えた影響は極めて大きなものでありました。

【京都帝国大学のその後の歩み】

京都帝国大学の敷地と建物には、上京区吉田町（現・左京区吉田本町）にあった第三高等学校のものが転用され、まず理工科大学（学部）が開設されました。続いて開学の2年後の明治32年（1899年）に法科・医科が設置され、次いで文科が置かれ、大正時代には理工科が工科・理科に分離され、さらに経済・農学部も増設されました。そして太平洋戦後の学制改革で、昭和24年（1949年）に京都帝国大学は、その南隣に移転していた第三高等学校と合体して新制大学へ改編されて京都大学となり、第三高等学校は京都大学教養部へ引き継がれました。

戦時中に臨時に置かれた附属医学専門部（医専）は医学部へ統合され、京都帝国大学医学部附属病院は京都大学医学部附属病院と改称され、現在に至っています（図89）。医専は戦時下における医師不足対策として設置された医師養成機関で、昭和14年（1939年）に7帝大を含む13の官立大学医学部に医専が併設され、昭和27年3月の卒業生を最後に廃止されました。医専の入学資格は中学卒業（医学部は高等学校卒業）で、授業料は80円（医学部は120円）で、修業年限は4年（当時の医学部は5年）であり、早く医師になれるため、医学部よりも多くの志望者が受験したそうです。



図89：現在の京都大学医学部附属病院。明治32年（1899年）以来の伝統ある同病院だが、その建物は今では近代建築に置き換わり、かつての面影を残す建物は保存されていない。京都府立医科大学では昭和初期に建てられた旧図書館の建物が保存されているので、歴史ファンの筆者としては少し残念なところである。なお表門に掲げられている名称は京都大学病院となっているが、ホームページには京都大学医学部附属病院となっており、どちらが正式名称なのだろうか。

【第三高等学校は京大教養部を経て現在は総合人間学部へ引き継がれている】

平成4年（1992年）に京都大学に総合人間学部が設置されたことにより、その翌年に教養部は廃止され、第三高等学校の伝統は総合人間学部へ引き継がれました。京都大学のシンボルとなっている時計台は、大正14年（1925年）にかつて第三高等学校の学舎があった場所に建てられ、平成15年（2003年）に百周年時計台記念館となっています（図90）。



図90：京都大学の時計台の 現況写真。時計台は、建築学科初代教授・武田五一が設計して大正14年（1925年）に完成し、ゼツェシオンの意匠を随所に留め、その外観は格調高い風格を備え、歴史的にも貴重な存在となっている。当時最新の鉄筋コンクリート造りで作られ、ホールの大スパン架構は、アングル・プレートのリベット組立て鉄骨トラス梁となっている。かつて法経学部の講義施設として使われ、近年は本部事務局として歩んできたが、平成15年（2003年）に百周年時計台記念館となっている。

【立命館創始者の中川小十郎は西園寺公望に供奉した丹波国馬路村の中川家の出身】

ここからは、京都帝国大学の発足の3年後に、荒神橋を渡って徒歩数分程度の鴨川の西側に設立された立命館大学とその創業者の中川小十郎のお話です。小十郎は山陰道鎮撫使総督となった西園寺公望に供奉した丹波国馬路村の有力郷士だった中川家の出身で、そのことが小十郎と公望を強い師弟関係と言っても過言ではない固い絆で結びました。

彼らの縁は慶応4年（1868年）年に19歳となった西園寺公望が、新政府から山陰道鎮撫使総督に任命されて丹波国馬路村（現在の京都府亀岡市馬路町）へ進軍した時に、有力郷士（身分は百姓で武士ではなかったが名字帯刀を赦されていた）の中川一族が公望に従うこととなったことから始まっています（図91）。小十郎の叔父の中川謙二郎（当時18歳）や中川百助らの中川一族が西園寺公望の元へ参集しました。



図91：西園寺公望の若年期の肖像（右側；画報近代百年史 第5集、日本近代史研究会編 国際文化情報社から刊行、国立国会図書館デジタルアーカイブから）と老年期の肖像（画報近代百年史 第16集、日本近代史研究会編 国際文化情報社から刊行、国立国会図書館デジタルアーカイブから）。若年期の肖像は公望が山陰道鎮撫使総督へ任命された頃の肖像で、帯刀し腕まくりしている姿が凛々しい。老年期の肖像は自宅でくつろいでいるところと思われる（京都の清風荘での一コマかもしれない）、目元に若年期の面影を残している。

山陰道鎮撫使総督の任務を終えた西園寺公望は、京都御苑の中にあった私邸内に私塾「立命館」を開校します。ここには学びたいと思う人々が身分をこえて集い、謙二郎や百助もここで学んでいました。特に謙二郎は公望に学才を認められ、「立命館」が京都府の命で閉鎖された時に、公望と共に東京へ行き開成学校（現在の東京大学）で学ぶことを許されました。謙二郎のこの経験は、のちに中川小十郎（謙二郎の甥）の人生を大きく変えていくことになります。

【中川小十郎は東京帝国大学を卒業して文部省へ入り西園寺文部大臣へ仕えた】

明治11年（1878）年に12歳となった中川小十郎は、叔父の中川謙二郎（後にお茶の水女子大学の校長となった）から東京での学問修業の誘いを受け、翌年に東京へ向かいます。謙二郎は自身が西園寺公望からしてもらったのと同じように、才能ゆたかで向学の意欲に燃えていた小十郎に今度は自分がしてやりたいと考えたのです。

小十郎は東京の謙二郎の自宅で岡田良平（後の文部大臣）や一木喜徳郎（後の東京帝国大学教授）らと同居し、夏目漱石とは学友であり、東京帝国大学では法学と経済学を専攻し（木下広次が恩師だった）、明治26年（1893年）に卒業します。

小十郎は、卒業後は恩師の木下広次（後の京都帝国大学初代総長）の紹介で文部省へ入省します。その翌年の明治27年（1894年）に西園寺公望が文部大臣に就任し、公望は山陰道鎮撫使の時に関係を深めた中川一族の小十郎との出会いを喜び、文部大臣秘書官に抜擢しました。そして、公望と小十郎のコンビで京都帝国大学の開学への地ならしがなされました。

その後に公望が明治30年（1897年）に日本女子大学の設立発起人を務めた際には、小十郎は成瀬仁蔵らと共に創立事務幹事長に就任しました。なお、日本女子大学の設立には奈良県の本村王で新島 襄の同志社大学構想のパトロンでもあった土倉庄三郎が多額の寄付をしているそうです。

【小十郎は京都帝国大学初代事務局長から実業界へ転じ、そして再び教育界へ！】

中川小十郎は、明治30年（1897年）早々に文部省参事官となり、その年の6月に京都帝国大学が設立されると京都帝国大学初代事務局長となり、恩師である京都帝国大学初代総長の木下広次との師弟コンビで京都帝国大学創立の舵取りをしました。

京都帝国大学の生みの親である西園寺公望はその開学の前年の明治29年（1896年）に文部大臣を辞し、文部大臣は蜂須賀茂韶（第2次松方内閣）に代わり、さらに明治30年（1897年）浜尾 新文部大臣に代わり、明治31年（1898年）に浜尾大臣に代わり再就任した西園寺公望文部大臣（第3次伊藤内閣）が病気を理由にまもなく辞職すると、小十郎もこれに殉じる形で明治31年（1898年）に退官しました。なお浜尾 新は元豊岡藩士で北垣国道の恩師である但馬聖人・池田草庵から教えを受けています。

小十郎が退官した時に、小十郎らと共に日本女子大学創立をした成瀬仁蔵が、大阪の豪商加島屋（NHK の朝ドラの主人公の広岡浅子が社長）を小十郎に紹介します。その頃の加島屋には傾きつつありましたが、小十郎は加島屋を再建し、加島銀行と大同生命保険株式会社が誕生しました。

加島屋の再建も軌道に乗り実業界での仕事に区切りがついた頃、教育への情熱を捨てずに燃やし続けていた小十郎は、創設に携わった京都帝国大学や自分の学んだ東京帝国大学が高等学校を卒業したエリート学生しか受け入れていないことに疑問を抱くようになります。そして勤労青年へ高等教育を受ける機会を提供することを理念とする私学創立を志し、明治32年（1899年）に京都法政学校（現・立命館大学）設立事務所を立ち上げました。

【中川小十郎が創設した立命館大学は勤労学生のための夜間部からスタートした】

このお話は次回でさせていただきますので、またお読みくださいね。

（第十三話・その2へ続く）



七 仏 七 界

西国四十九薬師霊場巡りの旅 その四 前編

「 瑠 界 」

上高野班 松 下 匡 孝

2024年4月27日

三重県多気町にある丹生大師神宮寺は近くに公共交通機関がないので、今回は自転車持参でお参りにすることにした。お参り予定の三重県の三寺は、多気町、津市、鈴鹿市と距離が離れているので、朝イチからスタートできるよう京都から一番遠い多気町に前泊する。世間はゴールデンウィーク。のぞみ号を待つ京都駅の上りホームには多くの人々がいたが、そのほとんどが外国人なのには驚いた。イタリア語（ぽかった）が飛び交っている。ベンチ近くに置いていた自転車を脇に避けると、ご婦人が「ありがとうございます。」と日本語でお礼言ってくれたが、「何語で返そう？ どういたしまして？ You're welcome? イタリア語でなんて言う？」とか頭の中で瞬時に考えたが、はにかむことしかできなかった。ちょっとした海外旅行気分を味わって名古屋に到着。名古屋駅から快速みえに乗車すること80分、松阪の南にある多気駅に17時に到着した。車内で「ICカードは……区間では、……せん。車掌にお知らせ下さい。」とアナウンスが流れており、“……”の部分が聞き取れず嫌な予感がしていたのだが、案の定ICOCAでは改札を出ることができず、現金精算となった。JR 東海圏の駅でICOCAをリセットしてもらわないといけならしい。あした津駅か、亀山駅で改札に寄ろう。多気駅前で自転車を組み立て、10分ほど走った先のホテルに到着。自転車は輪行袋に入れないと部屋には持ち込めないらしいので、面倒だがバラして輪行袋に詰める。夕食は隣にあるJAが経営している食堂でいただくことにした。天ぷら、刺身などが載った1,000円のすまいる定食をいただく。米が旨い。コンビニに寄ってからホテルに帰り、風呂に入って寝る態勢を整えるが、結局1時頃まで眠れず。エアコンのスイッチは切っているのに、部屋が寒かった…。

2024年4月28日

7時30分まで寝ているつもりだったが、6時に目が覚めてしまった。朝食は6時30分だから、折角起きたし宿泊客も多いようなので混雑する前に食べておこう。一番乗りではなかったが、皿に料理を盛っている間に満席になってしまった。そそくさと食堂を出て出発の準備をする。8時13分にホテルを出発。ホテルから神宮寺までは40分ほどの距離で、予

習も十分なのだが念のためにナビゲーションを起動する。雲ひとつ無い天気で、気温は23℃。やっぱり自転車で走るのは気持ちがいい。上り下りが続くが足がつくこともなく、8時40分、神宮寺に到着できた。

第三十五番札所 真言宗 山科派 丹生大師神宮寺

自転車を仁王門前に止め、一礼し門をくぐる。右手には大きな池があり、弘法大師が自作像を刻むために姿を写したとされる“姿見の池”というらしい。参道をまっすぐ行くと左手に小ぶりの薬師堂があった。扉は閉じられており本尊の薬師三尊像は見えない。お参りを終え、納経所が開く9時まで少し時間があるので右手の石段を登り大師堂へ。弘法大師御宝号の“南無大師遍照金剛”を唱えてお参りをした。9時になったので納経所で御宝印をいただく。



計画では9時30分に神宮寺を出て、多気駅から10時34分発の快速に乗って津駅で下車し、輪行袋を担いで徒歩10分ほどの四天王寺に11時20分に着く予定だ。しかしまだ9時10分、「2時間もあれば、四天王寺まで自転車で行けるんじゃない？」と考え、自転車ナビでルート検索をすると、電車で行くのと同じ到着時間はほぼ変わらない。天気もいいので自転車で四天王寺を目指すことにした。県道421号線から県道160号線、県道756号線を通して国道23号線を北上する。松阪市は牛肉が有名だから、すき焼きの専門店も沢山あるんじゃないかと思ったが、チェーンの牛丼屋や焼き肉屋ばかりが目立つ。自転車が走行不能な高架も無く、側道や地下道を走ることもなく11時12分、約30kmを無事走り切り四天王寺に到着した。

第三十四番札所 曹洞宗 塔世山 四天王寺

JR 津駅のすぐ南にあるお寺で、大阪の四天王寺と同じく聖徳太子によって建立されたと伝わっている。お参りの方が多い。どうやら法事をされているようだった。持参した線香ではなく、「身体健康祈願」と書かれた線香があったので購入して火を灯す。本堂前で読経。読経後本堂の中に入ると、右手奥に薬師如来座像が安置されていたので、近くに寄ってふたたび薬師経を唱える。お参りが終わり、おみくじを引いてみると大吉！大黒天のお守りも付いてい

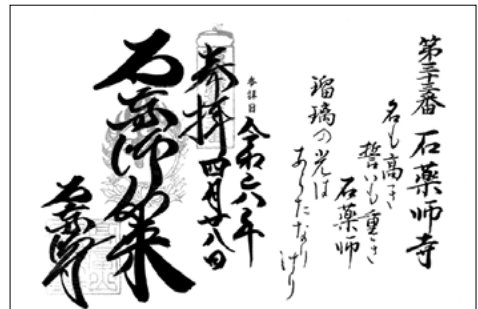


た。納経所で御宝印をいただき JR 津駅へ向かう。

津駅前で自転車を解体し輪行袋に詰めて、有人改札口に並んで ICOCA をリセットしてもらう。駅員さんひとりで対応しており、結構時間が掛かっているが、誰も嫌な顔をせず並んでいた。苛つく自分を反省。乗車予定の紀勢本線亀山行の発車まであと20分、目の前のドトールコーヒーなら大荷物の持ち込みも怒られないだろう。ミラノサンドとアイスコーヒーをいただいた。12時35分、紀勢本線に乗車し、亀山駅から関西本線快速に乗り換えて、ふた駅目の加佐登駅が石薬師寺の最寄り駅となる。13時33分、加佐登駅に到着した。無人駅である。加佐登駅までは ICOCA は使えないらしいので津駅で切符を購入してある。ワンマンカーは先頭車両の一番前の扉からしか降りられないのが面倒だ。加佐登駅前で自転車を組み立て、10分ほど走って石薬師寺に到着した。

第三十三番札所 東寺真言宗 石薬師寺

門をくぐり右に曲がると、新緑のもみじのトンネルが美しい。紅葉の時期はすごく綺麗だろう。石薬師という名前は769年、弘法大師がこの地を訪れ自ら花崗岩の大石に薬師如来を刻み開眼供養したと伝わり、これが本尊の石薬師如来像なのだそうだ。今日初めて灯明に火を灯し、線香に火を移す。本堂前で読経しお参りを終える。納経所にはどなたもおられず、しばし待っ



ていると本堂から掃除道具を持った住職様が出てこられた。バインダーを見せてお薬師様の御宝印をいただく。境内は手入れが行き届いており、また訪れたい美しいお寺だった。

今日のお参りは終わったが、京都に帰る途中に寄りたいところがある。加佐登駅から関西本線に乗車し、柘植駅から草津線に乗り換えて京都に帰ってくる予定なのだが、関西本線柘植駅から三駅先は伊賀上野駅。昔住んでいた上野に行ってみようと思う。未だ電化されていないワンマン列車は、16時に伊賀上野駅に到着した。私が住んでいた頃の1番線は近鉄伊賀線だったが、現在は伊賀鉄道が運営し、車体に松本零士デザインの忍者のイラストでラッピングされている。駅を出て自転車を組み立てながら「まさか50年近く前に住んでいた上野を、自転車で走るとは思ってもみなかったなあ。」と感慨深く思う。昔住んでいた病院兼住宅跡地は駐車場になっている。私が小学生の頃は近所に子供達も多かったが、今はドーナツ化現象が進んでいるので人気もなく静かだ。目を閉じると、ここに建っていた産婦人科病院の活気や亡くなった親父の声が聞こえてくるようだった。伊賀名物のかたやきを土産に買って帰ることにした。

その四後編に続く

編 集 後 記

本稿を書いている2024年9月22日時点で52-52です。MLB ドジャース大谷翔平選手の年間本塁打-盗塁数、前人未到の偉業だそうです。残り8試合あるので、皆様のお手元に今号が届く頃にはこの数字はもっと増えているでしょう、楽しみです。

大谷選手と言えば、開幕当初に通訳の方に多額のお金を使われてしまい、大変な目に遭われました。悲しく、試合に集中しにくかったでしょうに、笑顔を絶やさず、自分のやるべきことをひとつひとつ積み上げてこの数字に到達したこと、尊敬します。

彼には叶うべくもありませんが、「愚痴を言わない。人のせいにしない。体調を整え、自分のやるべきことを平常心で続ける。」を私の今秋の目標にしたいと思います。もし、ブツブツ文句を言っている私をみかけましたら「おまえ、10月号の編集後記でああ書いていたやろうが!」とお叱り下さいますよう、お願いいたします。

医報担当 兵庫美砂子

ホームページコーナー

URL <https://www.sakyo.kyoto.med.or.jp>

左京医師会では、ホームページを開設しております。皆様のアクセスをお待ちしております。また会員メーリングリストの運営を行っていますので、参加ご希望の方は医師会事務所までご連絡ください。

情報広報委員会

左京医報投稿のお願い

原稿締切 毎月 15 日
発 行 翌月初旬(合併号はこの限りではありません)
内 容 随筆・感想文・旅行記などを募集しております。また、表紙に絵画・書・写真などを左京医報へ掲載していただける先生がおられましたら、お気軽に事務所か兵庫美砂子までご連絡をお願いします。

左京医報 2024 年 10 月号(702 号)

発行日 2024年(令和6年)10月1日
発行所 一般社団法人 左 京 医 師 会
京都市左京区岩倉大鷲町422番地
電 話 (075) 701-1500
FAX (075) 701-1751
E-mail info@sakyo.kyoto.med.or.jp

発行人 塩 見 聡 史
編集人 兵 庫 美砂子
印刷所 (株)こだま印刷所
電 話 (075) 841-0052
FAX (075) 811-7873
E-mail mail@kodamap.co.jp